

みんなで語る会報告書

- 開催日時：平成28年11月4日（金）（19時00分～20時30分）
- 開催場所：徳光公民館
- 参加者数：【市民】40人、【市職員】市長ほか9人、【総計】50人

○ 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 地方創生について
- 4 意見交換
- 5 地域代表あいさつ
- 6 閉会

○ 意見交換の内容

【市民】

地域の活性化のためには、指宿市は第一次産業と観光をもってすれば、必ずや成功できると思っている。

地熱発電については大賛成であるが、それには前提がある。色々と危惧されている既存の温泉の枯渇の問題、掘削する井戸の深度の問題、深度が深ければヒ素のような毒素も含まれてくるのでその対策。それに伴うスパやレジャー施設、あるいは今の西大山からヘルシーランドー帯、それから長崎鼻、開聞岳の海岸側を通り、釜蓋神社辺りまでのサイクリングロードといったものが整備されると、非常に良いものが生まれるのではないかと思う。

また、地熱発電については、九州電力とセイカということだが、この前、凍結ということで発表がなされている。色々な方の意見を聞くと、「そのような事は知らなかった。出来レースだったのでは。」という意見も聞く。

指宿は砂むし温泉で有名であるが、外国人の資料を見ると、現在、砂むし温泉で一番人気があるのは別府である。大分県は杉乃井ホテルが引っ張っている状態であるが、福岡、長崎、佐賀からも直行バスをどんどん運行している。それは、食材と素晴らしい温泉の二つでお客さんを引っ張っている。その波及効果で、周囲も潤っているようである。

指宿市には砂むし温泉が二つあるが、天候等に左右され使いにくい部分もあるので、一帯の開発をされるのであれば、そのようなものも、別府に負けない一番をつくらないと意味がないと思う。そういうことから、地熱発電による一帯の開発をすることによって、指宿の素晴らしい食材もPRされていくと思う。

今、観光による地域おこしが全国で言われているが、そういった中で、気候・風土のように指宿でなければできないものがたくさんある。そういったものをもう一度見直して、真剣にまちづくりを、来る度にきれいになっているというものを皆でつくってあげれば、素晴らしいまちになると思う。そうすることで人も増え、滞在時間が長くなる。一部の観光業者に聞くと、砂むし温泉や温泉を済ませると鹿児島に泊まるようだ。交通が便利になってそうなったと言う人もいるが、色々な魅力がある所をつくって、滞在時間を長くし、回遊性を良くすると、指宿に泊まらないといけないということが出てくると思う。そういった意味で、地熱発電を生かした一帯の開発をすることが先決であると思う。枯渇の問題、毒素の問題、施設を造ったときの採算性が解決されれば、これに勝る開発はないと思うので、よろしく願いたい。

<市長>

新聞報道、その他、大変ご迷惑をおかけした。確かに、市民に対する説明、どうするのか、色々な問題があった。地熱発電について議会、ホテル関係者、色々ありますので、これは微妙な問題である。今日はアンケートをお願いするが、これは推進するためのものではない。皆さんの意見を聞いて、推進しないアンケートにもなり得る。行政が、この地熱の問題について、推進する方向性での説明は避けたかった。純粋な意見を聞き、今後どうするかということをしたかったわけである。

この地熱発電の問題は、ホテル関係、それから色々な問題があり、今後、事業を凍結という形にした。なぜ凍結かと言うと、色々な問題を解決しない以上はできないだろうと。報道関係からも、「なぜ、凍結なのか。白紙撤回ということにもなるのか。また、やることにもなるのか。」というようなこともあった。「私は今後、市民の意見を聞きながら、どうなるかは結論として出ていない。もしかすると、原点に戻って白紙撤回ということもあるかもしれない。それは、言えないところだ。」と、話してある。

この地熱の問題は、色々な考え方の方がいると思うが、皆さんの意見を聞き、バランスをとりながらやらなければならないと思っている。

【市民】

地熱発電については、市議会の反対もあり、凍結を表明している。九電があつた場所に、地熱発電所を完成したときに、山川町の議会誌を見ると、昭和58年とか昭和61年頃に、地熱開発に対する基準や山川独自の考え方が細かく書かれている。今、指宿市が悩んでいることを、当時、山川町がやって、現在の地熱発電所があると思う。

当時の南日本新聞等、色々を見ると、温泉業者が反対したという記事は、どこにもない。なぜ、今回は指宿の温泉業者や旅館組合等が、大多数の反対をしているのかということ、色々な造るときにデータがあると思う。ましては、平成27年の7月から10月にかけて、山川町一帯を地熱発電技術研究開発機構という所が実証実験を行い、新たに山川発電所周りを細かく調査していると思う。そのデータを、細かく説明したのかどうか。ましては、現在の山川発電所についても、地熱、熱水を吸い上げている井戸が12本あって、余剰水を還元する井戸も12本ありますよということをやっている。深さも2,100mあるということがあるので、指宿の温泉が枯渇することはないと思う。枯渇しないということ、なぜ言えないのか。

メディポリスが温泉を掘るときにも、鰻温泉が枯渇するからということで反対もあった。しかし、まだ枯れていない。指宿の旅館の方が反対するのは、裏に何かあるから反対するのではないか。客が減ってきていることなどをひっくるめて、反対運動をしているのではと思う。環境省に国庫補助の申請をして、それを取り下げるとするのは見苦しいことなので、最初に決めたとおり進めてもらいたい。

<市長>

この件について、他にないか。

【市民】

昨年に探査をして、素晴らしい熱源があると出たのではないか。それを、なぜ使わないのか。市民としての利益であるので、絶対に進めて欲しいと思っている。

<市長>

この地熱発電は、色々なことに影響があるのか、ないのか。また、このことによって、ホテル関係にどのような悪影響があるのか、プラスがあるのか。プラス、マイナス含めて、総合的に考えるために、私としては苦渋の決断として凍結した。皆さんの意見を聞きながら、安全・安心な地熱発電、旅館の共存できるような方法を探りたいと思い、凍結したわけである。

この地熱発電がもたらすプラス面ばかりを言うと、「推進のためだけに、市はしているではないか。マイナス面も、もっと説明するべきだ。」と、色々ある。意見としてお伺いしたので、それは大切にしなければならないと思う。

注目されている事業でもあり、凍結という決断の重みは私が一番わかっているつもりである。特に、この限界での地域振興には、大きな役割を果たすだろうということで、地方創生の中でやってはどうかと、振興計画の中でも、地域創生ビジョンの中にも入れ込んだ。しかし、今後どのように

するかということについては、結論としては今は出せないなので、そこは了解をいただきたい。

このアンケート調査も、する、しないという意味ではない。皆さんが、どう考えているのか。それを、行政も議会も、今後どう考えなければならないのか。そういう資料であるので、ぜひ、理解をいただきたい。

【市民】

山川には良い観光地がいっぱいあるのに、指宿から反対されて繁栄していかない。農業の方々も後継者がいないばかりに、困っているようである。ぜひ、山川にも企業を持ってきてもらいたい。

<市長>

山川の農地などを見ると、こんなに良い所があるものかと皆びっくりする。農産物のトップセールスに築地等へ行くと、特に山川地域のものは味も違うと喜ばれる。PRをする良い場所でもあるので、山川を元気にするためには何をしなければならないのか。企業もそうでしょう。農業も生産法人のようなものをつくって、若者がそこで働いて、どんどん儲かるようなことをしなければならないと計画の中でも考えているところである。これまでの農業形態では、もうたちうちができない。そういうことを含めて、そのために豊富な熱資源を利用して、燃費が高くなったから大変だったと言われられないような、総合的に行政と一緒に熱帯果樹でもできるようになると、子供たちも農業を頑張ろうとなるかもしれない。

色んな面で、今後、山川については、地熱の恵みもそうでしょう。色んなことが導入できるかどうかも含めて、早く結論を出さなければならないと思っている。

【市民】

地域の農業の高齢化率が、非常に高くなってきている。それで、休耕地がそこまで迫っている。市の補助事業も小出しにしているが、大型農家を育ててもらいたい。10町歩、20町歩を耕作する人を見付ければ雇用も生まれ、休耕地も減っていくと思う。また、山川高校の生徒を1年に一人ずつでも、大型農家に育ててもらいたい。

顔娃では、大型農業をする方が非常に多い。北海道に土地を買い、夏場に農業をしている方もいる。そういうのを見習って、後継者が出てくると思う。

<市長>

今、言われた通りである。農家の問題、経営の大型化の問題、耕作放棄地も最近見られるが、どのようにするのか。そして、山川高校を卒業した子供が、「よし、ここで頑張ろう。」というような環境もつくらないといけないという話だろう。

<副市長>

大型農家の法人をつくるような取組を進めていき、若い方々が夢を持って働けるような地域になれば良いと思っている。この徳光地域、山川地域は、資源が豊富にある地域だと思っているので、そうした取組をやっていきたい。

<市長>

今、山川高校の応援を学校だけに任せずに、農家・農業の魅力や、たくさん入学してくれるように中学校にチラシを配るといったことを、市が主体的に予算を組んでやっている。なぜかと言うと、後継者がいなくなると、指宿の農業、山川の農業はどうなるのかと非常に危機感を持っている。経営の大型化を含めて流通の問題、色んなことを解決しなければならない。この地方創生の一つの、農業の在り方に関わってくると思う。農家は、自然災害を非常に受けやすい。そういうものも含めて、災害に強い、足腰の強い農業をどう育てるか。そのための農家と行政の連携、支援の在り方というのも、今後真剣に考えていかなければならない。どのようにしたらよいという意見があれば、遠慮なく聞かせてもらいたい。

【市民】

観光と農業という観点から、まずは情報の発信をしなければならないのではないかと。3年半前に愛知から転入してきたが、観光案内を見ても鹿児島県の案内のチラシが少ない。他の地区では春夏秋冬で観光案内が変わり、時期によって行ってみようかという気になる。

もう一つは、農家を支援するような組織をつくり、売りやすい環境をつくる。農協との絡みもあるが、直販という意味で活用した方が農家が活性化されるのではないかと。生産者の名前を出して一緒に商品を出しているが、そのような形のものをもっとやるべきだと思う。

次に雇用であるが、雇用が増えなければ若者も来てくれない。指宿市は、距離的なハンデを感じる。鹿児島から川辺に行く自動車道路があるが、あのようなものを活用した方が早いかもしれない。南九州、南さつま、枕崎等を企業誘致の核にして、指宿市は農業中心でいくとなると新しい企業の導入は難しいだろうから、南薩の他市と連携をしながらやってもいいのではないかと。指宿市だけではなく、全体で付加価値の高いものを誘致するという手もあると思う。そうすることで、若い世代も増え、子どもも増えるのではないだろうか。

市教育委員会で、子どもたちを預かるモデルとなるシステムをつくってもよいのでは。指宿市は人的にも成長するし安心だという目玉を一つつくってもらいたい。注目されると思うし、そのことも情報発信していけばよいと思う。農業も含め、色んな方とリンクさせ、情報発信ができる窓口を市がやればよいと思う。

私が転入する際に、住宅を色々探した。確か南さつまと鹿屋では、市が家の紹介をしていた。指宿市も空き家問題等を抱えているので、市の担当課が空き住宅を色々見ながら使えるかを判断し、市が手を入れたりしながら賃貸住宅を貸したり、斡旋したりしてもよいのではないかと。市役所は他の企業と比べると生ぬるいと思うので、ノルマを課すなどもっと頑張ってもらいたい。

<市長>

貴重な提言をいただいた。重く受け止めて、施策の中に生かしていきたい。

空き家の問題については、例えばインターネットにも出ている。ここであれば入居したいという基準や、情報提供の仕方のアイデアがあれば教えてもらいたい。

【市民】

皆さん、それぞれ違う。家族構成や、自分が住みたい環境もある。私は海が近くて、釣りができる所がよかった。それと、人が余り多くない所。インターネットだけでは決めないので、何度か来てみて最終的に選択ということになると思う。

<市長>

大変、参考になった。他に、皆さんからないか。

【市民】

18年前に指宿に転入してきたが、当時は川尻から長崎鼻の松林が立派だった。しかし、最近は松枯れでほとんど枯れている。これを、市長はどのように考えているのか。松を植えたとも聞いているが、最近は台風も強くなっており、すぐ近くに住んでいるので心配している。

<市長>

防潮林の役割をしていた。5～6年前はヘリコプターで空中散布をしていたが、残留農薬が2年連続で出たため、たばこ農家の取引が停止になった。これがもし3年続いたら、JTが指宿のたばこは取り引きしないということになったため、今度はラジコンヘリのようなもので散布した。それでも、松枯れの勢いは止められなかった。樹幹注入をしようとしたが、大きさによって1本何万円もする。開聞のゴルフ場が全部枯れた。樹幹注入をしても枯れてしまった。これまでの防除の仕方では限界がある。限界があるからと言ってどんどん薬をまくと、周りの農家に非常に影響がある。戸ヶ峯のところが、一番、対応が難しかった。空中散布をしても何をして、松枯れに対抗できなくなった。環境の変化かもしれない。できるだけ努力をしたいと思っているが、何かいい案があるか。

【市民】

もう松に頼ることはできないと思う。他の樹木で風に強いものを植えてもらえれば、ありがたいと思う。

【市民】

松くい虫に強い松があるということで、何年か前に植えたことがある。

<市長>

支所長は何かあるか。抵抗何とか松というのが。

<山川支所長>

竹山に植えている松が松くい虫に強いと言われていたが、もう何本かしか残っていない。

<市長>

宮ヶ浜の駅前にある松は松枯れにあわないと言われていたが、最近枯れ出した。どうしたら良いか考えているところである。今後、勉強をさせてもらいたい。どのようなものを植えるかを含めて、農政部が必死に考えている。

【市民】

今年は、長崎鼻に来る観光バスが500台以上減っている。今、長崎鼻では再認識と再発見をテーマにいろいろ活性化を図っているが、樹木が伸びて視界を遮っており再整備が必要だと思う。また、開聞岳、龍宮神社だけではもたなくなった。観光スポットや、お客さんが参加して楽しめるスポットがないと、若いお客さんは来ない。私たちもいろいろと考えているので、市長に旗振り役を務めてもらい各地に発信していきたい。

<市長>

これは、約束する。あと1年すると、大河ドラマは「西郷どん」である。始まると、篤姫のときのように恐らく観光客が来るだろうと思う。この前は、山川でロケをするようNHKにお願いに行った。そうなると、長崎鼻はトイレの問題や駐車場の問題もあり、あのままでは駄目だろうと思う。いつか、長崎鼻の方々と観光課や財政課を含めて話し合う機会をつくりたい。国民宿舎の跡地もしなければならぬ。開聞一周道路も、いわさきの社長もすると言っている。国体もある、オリンピックもある、「西郷どん」も始まる。颯娃の方に行くと、釜蓋神社までのコースができたとすれば最大の観光地になる。韓国のオルレコースとして九州一になるかもしれない。長崎鼻を元気にする方法を考えたい。

【市民】

「西郷どん」については、鰻池、山川港、長崎鼻の3つを頭に入れて、「西郷どん」を機会に観光に取り組むための準備委員会をつくっているところである。どのような方々が入るかを含めて、スケジュールとしては11月末までに予算も出すように言われている。「西郷どん」はチャンスであるので、長崎鼻だけではなく、利右衛門さんの徳光神社なども入れるとおもしろいと思う。

<市長>

農業・観光・その他、来年度の当初からしなければ間に合わない。農業等もそうである。指宿の魅力とはどのようなものがあるのか。マンゴー、ソラマメ、オクラ、スナップ、徳光すいか、そのようなものをトータルで連携しながらやっていくということが、地方創生の要になる。ぜひ、いろいろな知恵をもらいたい。

【市民】

地熱発電が凍結となり、非常に残念である。大いに推進していくべきものだと思う。かなり深いところから泉熱を取ることなので、既存の温泉、特に指宿の温泉に全く影響するはずはない。地質学的・学的な根拠を示せば納得するのではないかと。反対の理由が他にもあるのでは。今、伏目で温泉を噴き上げさせているが、多量に塩分を含んでいる。昨年の語る会でも指摘して、地熱発電が完成して5年後には解決すると喜んでいたら凍結になった。被害が続くのではと残念に思っている。

地熱発電という半永久的に利用できる熱資源を利用して、なおかつ売電収入を得るので大いに進めるべきである。

<市長>

地熱発電は急にしたのではなく、ずっと調査をしながら地域皆の財産として生かしたらどうかというのが、地方創生の一つの柱であった。賛否両論があるので、いろいろな所の方々の意見を聞きながら、特にホテル関係に影響があるとすれば、他の地熱発電業者にも波及する。様々なことがあったので、凍結という判断をした。いろいろな意見を聞きたい。

【市民】

今、豆類の栽培が増えている。豆類関係の農業をどうするかと言えば、これからの農業は防災営農という考え方を持たないと、ただ台風や雪でやられたということではなく、霜や雪がくるとすればどのような対策をすればよいのかという、農家ができるような営農の仕方を考えて提案しなければならないと思う。営農の話し合いをやっていかないと、出荷できないと何にもならない。農家が生産意欲を出すような、防災営農に力を入れて、普及所、農協、市と一緒にやって農家にPRしなければならない。

<市長>

まさしくそうだと思う。非常にいい提言をいただいた。

<副市長>

ここは、オクラやソラマメが盛んな地域である。そのようなものの付加価値を高めるようなものが作れないか取り組んでいる。オクラも枯れていくだけのものを乾燥させて粉末にし、新しい食材として活用できないか。活用するにあたっては、オクラに含まれる成分に健康なものがないだろうか。そういったもので、オクラの付加価値を高めて全国に発信して、健幸のまち指宿として売り出せないかということで実証事業を進めている。そのような視点からも、農業の付加価値や生産力を高めていけたらと総合戦略の中に位置づけて取り組んでいる。

<市長>

農業の基盤の強化は、指宿の人ではなく、外からの企業等が指宿でやりたいと来ている。尾下牧場を中国の方が見に来た。ここで農業ができないはずはない。農業団地をつくってというようなことで何度も見に来た。JRや鹿銀もしている。企業誘致も含めた形での農業形態を変えるということも必要だろうと思う。

【市民】

企業誘致や大規模農家を育てるのも大事だが、今ある農家を育てていかなければいけない。若い人たちがプラス思考で取り組むような方法を打つ出していかなければ農業の発展はない。どのようにすればプラス思考を持つようになるのかを皆で話し合って、そして、提案できるような農政であって欲しい。

<市長>

若い人たちと話す機会をつくりたいと思う。

【市民】

今、松枯れの伐採をしているのは行政が行っているのか。伐採を若者に頼んで、育成してもらえないか。松だけでなく、いろいろな木々もツルでからまれている。

<総務部長>

伐倒駆除については市で予算を組んで、森林組合にお願いをして処理をしている。非常にひどい状況になっているので、12月にも予算を新たに組んで伐倒駆除の計画をいっている。

<市長>

山が元気でないとお海も育たない。農政部にもこのような意見があったということを確認に伝えて、改善の方向を探りたい。

【市民】

色々な調査やアンケートの結果を見たことがない。その報告が一切なされていない。今日のこのような会も、集約して皆に流すべきだと思う。今日参加した人にだけでもお願いしたい。

<市長>

意見を大切にしたいと意欲もわくと思う。確実にできること、今後どうするというようなことは区長等を通して返したい。